
一般演題 | 手術 (POP)

LSC RSC

座長:石川 哲也、森山 真吾

2023年8月5日(土) 17:10 ~ 18:05 一ツ橋ホール (日本教育会館 3F)

17:10 ~ 17:15

[1A44P]当院における腹腔鏡下仙骨腔固定術の初期成績

○俵 聡¹、黄 鼎文^{1,2}、池田 篤史³ (1. 牛久愛和総合病院・泌尿器科、2. つくばウロケアクリニック、3. 筑波大学・泌尿器科)

キーワード：腹腔鏡下仙骨腔固定術、初期成績、骨盤臓器脱

【目的】当院での腹腔鏡下仙骨腔固定術の初期成績を検討する。【方法】2020年7月から2022年6月までに手術を行った53例を対象とし患者背景と周術期成績を集計し解析した。【結果】年齢中央値76歳、BMI中央値23.5kg/m²、骨盤臓器脱の重症度について、膀胱瘤 stage IIIは34例であり、子宮脱 stage IIIは16例、子宮脱 stage IVは4例、子宮全摘後の腔断端脱は5例であり、直腸瘤 stage IIは3例、直腸瘤 stage IIIは2例であった。手術時間中央値155分、術中合併症については、膀胱損傷は1例認めたが腹腔鏡下に修復した。輸血を要する周術期の重大合併症はなかった。在院日数中央値は6日であった。術後1年で再発とメッシュ露出は観察されていない。術後の排尿状態の評価も行った。残尿量平均値は術前81ml、術後1年での平均値11ml (p値<0.001)と有意に改善した。OABSS平均値は術前5.3点、術後1年で3.9点 (p0.009値)と有意に改善がみられた。術後腹圧性尿失禁を15例認め重症3例へ中部尿道スリング手術を実施した。【考察】周術期成績は諸家の報告と同程度だった。本手術は耐術能を評価すれば後期高齢者でも許容されると考える。COI (利益相反) 申告の有無: 無